

学生と地域をつなぐ

～ミニ・スタディツアーの提案～

龍谷大学社会学部3回生 井場 菜々美、小杉 心人、阪本 桃香、廣岡 龍之介



概要（サマリー）

びわこ文化公園の魅力として、自然が豊かで景観が良いところや広大な敷地で施設が充実している点などが挙げられた。

一方で、公園自体の認知度が低いことや学生の利用率が低いこと、公園が持つ魅力や強みが埋もれてしまっていることなどが改善点として挙げられた。

そのため、身近にある「学び」の場として整備されているびわこ文化公園の価値をどのようにして、地域住民の方や学生に伝えるかの考察と具体案の立案を行った。

今回は、学生と地域を結びつける場として、小学生から大学生を対象に、びわこ文化公園内で自然探索ツアーを行うことを提案する。

課題設定

びわこ文化公園の課題として、私たちのグループでは、「学生の利用者が少ないこと」、「びわこ文化公園が持つ魅力や強みが埋まってしまっていること」、「県内外を問わず、公園の認知度が低いこと」が挙げられた。

びわこ文化公園の周辺には、龍谷大学や立命館大学、滋賀医科大学などの大学があるため、学生の利用者を上げるにはとても良い環境が整っていると考えることができた。

以上のことから、若者や学生にターゲットにした、アイデアが必要であることが明らかになった。

提案の内容

滋賀県ならではの自然や文化を身近に感じることができ、様々な施設が充実している「学びの場」であるびわこ文化公園の知名度を広げ、より楽しく学べる場であることをたくさんの地域の学生や生徒に知ってもらうため、地域の小学校、中学校、高校の生徒と龍谷大学（立命館大学）の学生が集い、グループを作って公園内を歩いて周り、実際に体験しながら学んでいくツアー。

知識の豊富な先導ガイドを設置し、びわこ文化公園内の図書館や美術館を見学することで、特有の文化や植物の知識を楽しく付けてもらう。

ツアー参加者が幅広い年齢層であるため、同ツアーの中でも各年齢層ごとに課題やワークシートを設定・製作し、学生、中高生、小学生それぞれに適した学習が出来るようにガイドする。

また、学習だけでなく、自由なコミュニケーションの時間を設けることで、年齢を超えた地域の「つながり」を実感できる場にすることが理想である。

知識を付けること自体だけが重要な目的ではなく、このツアーを機にびぶん公園のことを知ってもらい、また来たいと思えるようなツアーにすることも目的として挙げられる。

実現に向けて解決すべき課題

- ・地域の小中、高等学校と龍谷（立命館）大学、びわこ文化公園の三方向の連携方法。
- ・学内だけではなく地域との関わりを重視した、幅広い年齢層の中で体験実習を行う事例の提示。（前例が少ないため）
- ・様々な学年に合わせた学習内容の設定、設定法、基準



調査結果

「地域における体験学習・体験活動の効果に関する研究」

鈴木佳苗（2007）日本教育工学会論文誌，31，209-212

【概要】

- ・全国の29の機関・団体を対象として質問紙調査を実施
- ・今年度もっとも力を入れて行った体験学習・体験活動の種類と実施状況（開催時期・期間，対象年齢），期待されている効果と実感されている効果について調査

【結果】

- ・「自然体験」「ものづくり体験」「交流体験」が多く行われている
- ・対象は小学生が最多、高校生が最少
- ・半数以上の機関・団体で6月～10月に開催しており、半日以内のプログラムが多い（～6時間）
- ・期待される効果としては、「コミュニケーション力がつく」「社会的スキルが高まる」「集団活動への参画意欲が高まる」という回答が多く、これらは実感されている効果としても挙げられていた
- ・「共感性が高まる」「思いやりの気持ちが高まる」という効果を実感しているという回答も比較的多く見られた

調査結果の考察

地域の体験学習や体験活動によってもたらされる効果には様々なものがあることがわかる。地域についての知識を深められるだけでなく、「コミュニケーション力」や「社会的スキル」など学生のうちに身につけておくべき力を習得する機会にもなり得ると考えられる。